

1月16日(金)に震災に関する道徳を行いました。「命、今生きていること」という内容で、東日本大震災でおばあちゃんを亡くした少年の悲しい出来事を通して、かけがえのない生命の尊さを理解し、自分たちができることについて考えました。1月6日(火)に島根県で大きな地震があり、いつ大きな災害が私たちの生活を一変させてしまうか分からない状況の中、生命の尊さや、夢や希望をもって前向きに生きようと考えられた時間となりました。



授業の感想を紹介します。

- ・自分は震災にあったことはないけれど、動画や作文を通して、家族や友達をなくす辛さがよく分かった。当たり前だと思っている生活も、一変してしまうところが震災の怖さだと思った。震災にあった人たちと同じように毎日を大切に生きていきたいと思い、改めて家族や友達の大切さについて考えることができた。
- ・他人事ではなく、自分事だと捉えて、これから生きていこうと思った。
- ・自分にもこんな悲劇が降りかかってしまう可能性は十分にあるのだという自覚と恐怖が芽生え、今日こうして授業で教えてもらったように、私もいつか次世代の人につないでいきたいと思えるようになった。震災で亡くなった命を無駄にしないようにするためには、目を背けずに知ることだと思う。私のように映像を見るのが苦手な人もいる。それでも、できる限り事実を受け止めて、忘れず、片隅に留めるくらいはしないと、いつか過去の震災は風化してしまうと私は考える。だから、これからも何てことない毎日の特別さを噛み締めて今を生きていきたい。
- ・当たり前だと思っているからこそ、面倒くさい、だるい、やりたくないなどってしまうかもしれないけれど、1つ1つに感謝して丁寧に生きていきたいと感じた。
- ・「当たり前じゃない」ってどれだけ言われても、やっぱり100%自分のこととして感じることは難しいと思うけれど、周りの人を大切にしたり、後悔ないように人と接したりするのはできるから、本当にそうしようと思った。生きていること自体に感謝だ。